

有田川町にUターン、ゲストハウスをオープンして3年になる。親戚が住んでいた家が空き家になり、譲り受けたことがUターンのきっかけになった。リフォームをしようと見積もりを取ると意外に高い。ならばこの家を活用して収入を得る方法はないかと考え、ゲストハウスに行き着いた。

不安もあった。保守的な土地柄で、不特定多数の人が訪れる場所が周囲に受け入れてもらえるか。背中を押してくれたのは、ちょうどその頃出会った、まちづくり団体の人たち。「面白そうやん」「やってみたら」という言葉に、勇気づけられた。ゲストハウスのプランを練るためのワークショップにも協力してもらい、計画が具体化していった。

有田川町は、特別な観光資源は少ないものの、自然は絶対的な魅力。ゲストハウスには、海外からのお客様さんも予想外に多く、ゆっくりと日本の田舎を満喫したい人が数多く訪れる。今年に入ってゲストハウスで期間限定のバーを始めた。温かく協力してくれる地域の人に恩返しするため、今後は地域の人も楽しめる場所にしていきたい。

まちづくり団体との出会いをきっかけに、「有田川女子会 UP Girls」という女性団体の代表も務めている。有志でつくった有田川町のガイドブックは、地域の人に街の暮らしを楽しんでもらうため、魅力的なスポットを女性目線で紹介した。有田川女子会メンバーの特技を生かし、ヨガや料理などのイベントも開催しており、参加をきっかけに移住に興味を持つ人も出てきている。

若い人の生き方やお金に関する価値観が変わってきていると感じる。今の生活や仕事の枠から抜け出すのは勇気がいるが、イベントへの参加などで関わりを続けてくれる人は多い。都会で生活しながらも、休日は田舎で活動する、こんなゆるやかなつながりが心地よいのかもしれない。

私の役目は、つなぐこと。地域と移住者、人と場所をつなぐ架け橋となっていけたら嬉しい。✎

故郷で人と場所をつなぐ架け橋に

楠部睦美 「ゲストハウスもらいもん」オーナー
「有田川女子会 UP Girls」代表



Mutsumi Kusube

くすべ むつみ

1987年和歌山県有田川町生まれ。大学時代、京都府丹後地方で村おこしの活動に携わった経験が故郷を見直すきっかけとなる。大学卒業後、愛知県の建築会社で4年間勤め、2015年に有田川町にUターン、16年「ゲストハウスもらいもん」オープン。現在は、地域女性のコミュニティ「有田川女子会 UP Girls」の代表も務め、地域と移住者をつなぐキーパーソンとして活躍する。

<https://moraimon.jp/index.html>

<http://shiyola-web.jp/>

季刊「やく」 September 2019 | No.40

C O N T E N T S

02 Person 人・明日をつくる

故郷で人と場所をつなぐ架け橋に

楠部睦美

03 〔鼎談〕基軸を探る

持続的な地域活性化を考える

中野雅至／佐野真由子／荒木秀之

18 オビニオン

地域活性化への視点

自律・自治

「現実と向き合い、自治体と住民自ら地域社会を再構築」北村 亘

都市

「万博へ、そしてその先へ、集客都市・関西の展望」嘉名光市

エネルギー

「都市計画・エネルギー・情報の三位一体で進めるスマートコミュニティ」下田吉之

25 旬発NIPPON

知られざる歴史を語る——「最古の天満宮と最後の城」

29 かんてんFOCUS

地域活性化を牽引する関西電力

田井公浩

34 現場力ノ最前線

関西活性化へ、企業誘致に動く